

福島放技ニュース

日本放射線技師会の新役員に望むこと

齋藤 康雄

日本放射線技師会総会が6月2～3日にわたり行われた。2日は、平成17年度事業報告・決算・監査報告と平成18年度の事業案・予算案が審議され、3日は役員選挙が行われたが、会員の総会傍聴は今回も認められなかった。総会は議長選出後次第に従い坦々と進められ、17年度事業報告・決算は賛成多数で可決された。監査報告は、修正箇所が何カ所か指摘され修正することで可決したが、監査内容については、現体制の問題点の指摘や要望等、今後の指針になり得るものであると言える。18年度事業計画・予算についても、質問は意見や要望は出たものの、原案通り可決された。

2日目は役員選挙のみ行われた。JART4月号で立候補や推薦の公示があったが、地域理事、理事、監事は定数なので無投票当選となり、会長と副会長が選挙になった。会場には、公の選挙の様に受付、記名所、投票箱が設置され、立ち会い者が置かれ公正に行われた。会長の立候補者が2名、副会長の立候補者が4名で、会長については上位の者、副会長については上位から2名が当選とすることとして沖縄県から順に投票が進められた。

以前に、福島県放射線技師会でも一騎打ちの会長選挙が行われたことがあった。上層部の顔ぶれは年を追っても余り変わりのない少人数の会での仲間内の選挙でもあり、その凝りが後々まで残って暫くの間何かとギクシャクした会運営になったことを思いだした。会長選挙の得票数は、熊谷氏99票、中沢氏90票と惜しい結果に終わり、副会長選でも小川氏100票、佐久川氏96票、井戸氏94票、伊藤氏86票と、我々の推した小川氏は当選したものの、井戸氏は2票差という僅差で惜敗してしまった。選挙は結果が全てであり、会員の意は現状で良いと言うことなのかも知れないが、現会長を否としている代議員が半分はいるのだということを重く受け止めるべきである。会は役員だけで成り立っているのではなく、会員あってこそその役員であり、会であることを忘れてはならない。2日目の日程は、役員選挙の後、スローガンとして、「医療被ばく管理は、私たちの責任で」を採択し、総会の全日程を終了した。

我々は、現体制非と言っても全てを否定しているわけではないし、生涯教育制度にしてもそれ自体は必要であり、教育無いところに進歩はないと考え積極的に進めている。問題は差別化とも取れる格付制度や性急すぎて会員が着いていけない生涯教育制度など、先の見えない状況の中で、なかば強要的な進め方に異議を申しているのである。

今回の選挙では、現会長は残ったものの副会長の一名が変わり、片倉福島県放射線技師会長を始めとする日本放射線技師会の事業や運営の現状に異議を唱える何人かの新理事も役員として入った。今後、日本放射線技師会に対しては、是々非々で対応し、会員から信頼される組織の構築と運営に期待したい。

平成 18 年度福島県放射線技師会総会開催される

平成 18 年度の福島県放射線技師会総会が平成 18 年 5 月 20,21 日に会津の東山グランドホテルで開かれた。

14 時 10 分から、学術委員会分科会の活動内容が発表された、各会の代表者から前年度の活動内容や今後の目標などが報告された。

次いで、特別講演が行われ、『奥会津に生きる』と題して奥会津書房の編集長である遠藤由美子先生が講演を行った、会津各地に伝わる伝統的な風習とそこに流れる先人の“心”を紹介し、厳しい自然と人間の長い付き合いの中から生まれた奥会津の人々の生活と文化は、現代を生き抜く私たちにも糧となることが多く、遠い昔に忘れかけていた大切なことを思い起こすような話であった。

次いで 16 時 30 分から総会が開かれ、会長挨拶の後、名誉会員の推戴があり、浜通り支部の佐藤好さんが名誉会員として承認された。引き続き 20 年勤続の表彰が行われたが、今回は例年になく本人の出席が少なく、代理で受賞する支部長の姿だけが目立った、毎年の総会には参加できなくても、せっかくの永年勤続の表彰なので、受賞される方はぜひ参加して会長の手から受け取って欲しいものである。

会津支部の遠山氏と浜支部の船生氏を議長に選出し、



資格審査委員の総会成立宣言を受けて、議事が始まった。大きな問題も出ず粛々と進行したが、総会資料の CD 配信などに質問が出ていた。

引き続いて行われた懇親会は、協賛各社の参加もあり、盛大に開かれた、和やかな雰囲気の中、会津の酒を堪能し親交を深め合った。今回担当の会津支部の皆様、本当にご苦労様でした。



放射線技師学術大会の演題募集について

県学術大会実行委員長 新里 昌一

平成 18 年度の福島県放射線技師学術大会を、11 月 12 日（日曜日）に県立福島医科大学大講堂において開催しますので演題を募集します。

会員の皆様には、職場で行っている撮影法・検査あるいは治療法の紹介や導入した装置の使用経験等、何でも結構です。学術大会で発表して欲しいと思います。多忙な診療の傍ら、日頃の研究成果をまとめられた貴重な成果を演題発表と言う形で報告してください。今回は演者に関しても「ノーネクタイ」で結構ですのでよろしくお願い致します。

募集要項は県ホームページにも載せましたが、下記の内容でお願いします。

大会運営は、学術委員会を中心に医大の多大な協力を含め精鋭会員が準備を進めて行くつもりです。実行委員長の不行き届きはあるかもしれませんが、心より皆様多数のご参加をお待ち申し上げます。

なお、大会プログラムが皆様のお手元に届くのは 10 月末を予定しています。

2006 年度福島県放射線技師会 学術大会 演題募集

申込締切 9 月 26 日（月曜）

開催日 平成 18 年 11 月 12 日（日）

会場 県立福島医科大学 大講堂

演題募集要項

演題申込 700 字以内の抄録（演題名、施設名、発表者名《共同研究者を含む》、

目的、方法、結果《図表不可》）を下記大会事務局へメール、（1 演題 1 メール）で申し込んでください。

申込期間 編成 18 年 5 月 20 日から

発表形式 口述発表、1 題 8 分、発表時間は厳守してください。

PC 発表のみ、（スクリーンは 1 面横画面に限定）

Windows Power Point(97,2000,2002)のファイル形式でフロッピー、CD-R か USB メモリーで持参ください。

動画使用時は Windows Power Point(97,2000,2002)で作成したファイルと同一のディレクトリー内に動画ファイルを作成してください。

（外部ディスプレイに試写しておいてください。）

その他 予稿集は 10 月下旬には発送予定

大会事務局 〒963-8558 郡山市 2-5-20

太田西ノ内病院放射線部内

実行委員長 新里昌一

tel 024(925)1188 (内線)31265

e-mail radio-tec@ohta-hp.or.jp

救急医療学セミナー各地区で開催される

《県北支部》

平成18年度の県技師会の取り組みである、アドバンスド講習の救急医療学セミナーの実習編に当たる上級救命講習が県内各地区の消防署の全面的な協力のもと各支部でスタートした。

例えば6月11日の須賀川消防署の講習内容では、心肺蘇生法・AEDを用いた応急手当・小児および乳児の



心肺蘇生法・止血法・搬送法・けがに対する応急手当(特に三角巾の使用など)多岐にわたり朝8:30~夕17:15まで、ほとんど余裕の無い厳しい時間が過ぎた。当日の参加者数は全18人であった。学科および実技の試験もあり、真剣なセミナー受講者の姿勢で全員が合格を果たした。医療人として救急処置とは縁の無い放射線科技師像であったが、市民救命活動に参加できる内容と言えるほどに立派で有意義なセミナーであった。救命の連鎖の重要性や心肺蘇生法の流れ・循環サインの確認など普段の



日常業務では聞きなれない言葉の中、医療人としての自覚をもたされた1日がありました。

(大森)

入会のご案内(新採用の皆様へ)

今年度の新規採用の方も、学校を卒業し、実践の場で働き始めて早2ヶ月が過ぎます。

実際の仕事がどんなものか解りかけてきた頃ではないでしょうか。私達の仕事は新しい知識や技術が求められます、そのためには常に最新の情報を吸収し自己のスキルアップをはかる必要があります。

日本放射線技師会や福島県放射線技師会は同じ職業を持つ仲間の集まりとして、きっと助けになってくれるはずで、生涯学習の実践、学術大会の参加や定期刊行物の送付など様々な活動をしています。

免許取得年に入会されると半額になりますからチャンスです、一度日本放射線技師科のホームページを覗いてみてください [“http://www.jart.jp/”](http://www.jart.jp/)

支部だより

平成18年度県北支部総会開催される

去る平成18年4月21日、県北支部総会が福島テルサにおいて開催された。

(財)福島県保健衛生協会の八代功士氏、公立藤田総合病院の笹木毅氏が議長に選出され、資格審査委員より「会員数164名中、委任状を含む出席者が116名」との報告で本総会の有効宣言が出された。議事は淡々と進行し総会は無事終了した。総会の中で、斎藤重夫支部長より「本年度は支部で行う講演会や勉強会を積極的に行っていく事や、若人会員の懇談会を行うなど支部の活発化を図っていきたい」との計画案が発表された。

その後、懇親会が行われ、特に今回も多くの賛助会員の参加があり、一般会員との和気あいあいとした親睦が続いていた。今後も支部の活動を活発化するために会員の皆様の積極的な参加を望みます。(池田)



(4/26 県北支部総会の風景)

《会津支部》

平成18年度会津支部総会開催される

平成18年5月20日~5月21日、第59回(社)福島県放射線技師会総会が、東山温泉東山グランドホテルにて開催されました。総会が開催されるにあたり、今回は会津支部が会場準備などを担当させていただくことになっておりました。

昨年より、何度も総会準備についてミーティングを行ってきたおかげで、また参加していただいた皆様のご協力により、総会当日は混乱も遅延もなく、非常にスムーズに会を推し進めることができましたことを、感謝したいと思います。私個人の感想としては、今回はじめて総会に出席させて頂きましたし、はじめての総会が準備する側だったこともあってか、当日総会が始まってからは、言い知れない緊張を感じてしまって、気がつくといつの

間にか総会が終了していた感じでした。

またこの度は、奥会津書房の遠藤由美子編集長に、特別講演を行っていただきました。「奥会津に生きる」と題した講演では、今を生きる我々大人が将来を生きる子供たちに対して、一体何を残してあげられるのか、何をすべきなのかなど、医療を取り巻く現状に通じるお話もあって、非常に意義深い時間を過ごす事ができたと感じております。この場をお借りて、御礼申し上げます。

総会終了後、情報交換をかねた懇親会では、おいしい料理に舌鼓を打ちつつ、お酒の力も相まって、各病院施設間や協賛メーカー様方と、普段以上に親密になれるほど大盛り上がりの方でした。

最後に、今回協賛していただいたメーカーの皆様とご出席していただいた皆様、大変お疲れ様でした。皆様のご協力に感謝いたしますとともに、あらためまして御礼申し上げます。(森谷)

《県南支部》

平成18年度県南支部総会開催される

平成18年4月26日(水)郡山市ビックアイに於いて県南支部総会が行われた。学術講演として太田西の内病院の新里昌一氏から「MRIアーチファクトの料理法について」の講演をして頂き頸部での位相方向の変更、腹部でNEXを上げマトリックスを下げる方法などをお聞きした。総会は、県南会員206名中出席、委任状総計149名により成立し平成17年度の事業、決算、監査報告があり承認された。続いて平成18年度事業計画、予算案が提示されこれも承認を受けた。また、慶弔規定を一部改訂案が出され承認された。



(4/26 県南支部総会の風景)

浜通り支部総会及び学術発表会開催される

平成18年4月15日(土)13:00からいわき市の新舞子ハイツにおいて、福島県放射線技師会浜通り支部総会および学術発表会が開催されました。定例の学術発表会は、若手技師を中心に6演題が発表されました。また、本総会において浜通りいわき市立総合磐城共立病院の本田支部長はじめ各執行部から平成17年度事業報告および平成18年度事業計画案が報告され承認されました。特別講演ではいわき市内の造り酒屋である四家酒造：四家良一社長の「酒屋のだんなのくりごと」と題する社長自身の体験談と人間関係、また酒造りに関する楽しい興味深い話を満喫しました。総会終了後には定例の懇親会が開かれました。四家酒造からの銘酒の提供もあり、本田支部長の挨拶後には美味しいお酒を楽しみながら浜通り技師会の現状と今後を語り合いました。(大森)



編集後記

〇いよいよ福島県も4科目最後の救命救急学セミナーが各支部で行われ、各地域の消防署を中心に心肺蘇生法や救急時の対応や心がけを中心に学習しています。この冷めた医療政策・厳しい病院経営の現状の中で、今後の医療に将来はあるのでしょうか。(大森)

《浜通り支部》